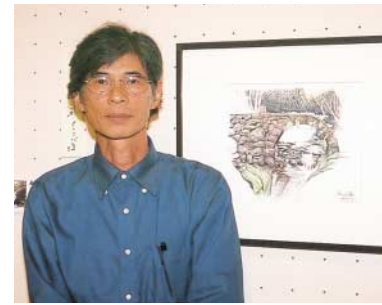




市総合防災訓練で、応急給水訓練を行う参加者の皆さん

九じろうの取材日記

石橋を描き続けるすえながのぶをさん



すえながのぶをさん
奥の口橋(世知原町矢橋・1926年架設)

8月3日(29日)に、本市と吉井・世知原町の合併を記念して、「佐世保市の石橋34・九州の石橋スケッチ紀行展」が島瀬美術センターで開催されました。
この作品展には、吉井町踊瀬(おどせ)の中学校教諭すえながのぶを(末永暢雄)さんがこれまでに描いた県内外の石橋のスケッチ72点が展示され、連日大勢の人が訪れにぎわいを見せました。

きつかけは教え子

すえながさんが石橋に関心を持ったのは4年前のことです。当時勤務していた世知原中学校の授業で、自分たちの町の石橋を調べたいという生徒たちと、石橋を訪ね歩いたことがきっかけでした。
多くの石橋は草に覆われ、地域の人たちからも忘れ去られたような存在でしたが、その素朴さに魅せられました。これまでにすえながさんが描いた県内をはじめ九州各地の石橋の数は170を超えます。

魅力あふれる石橋の数々

石橋の魅力の一つは渓谷などの自然と調和したアーチの美しさにあるそうです。
県内では江戸時代に作られた長崎市の眼鏡橋が有名ですが、本市の石橋の多くは明治時代から昭和初期に架けられ、これにより人の往来や物流が発達し地域の発展へと結びつきました。



いし橋(世知原町筒瀬・1907年架設)

また、石橋は当時盛んだった炭坑抜きに語ることはできません。石炭を満載したトラックを通すため頑強に造られ、二連のアーチが美しい吉井町大渡の「樋口橋」は、架設から80年以上がたった今でもトラックやバスが往来しています。



樋口橋(吉井町大渡・1922年架設)

忘れられた橋を「再現」

すえながさんが描く石橋は、石の数や色、形、その石組みの様子まで、ボールペンを使って忠実に再現されています。
その資料作りのため、秋から初夏にかけて石橋を訪ねて各地を回りますが、その多くは草に覆われているため作業は草刈りから始まります。次にロープを付けて川底まで降り立ち、あらゆる角度から写真に収めます。そして、週末に撮り溜めた写真を基に描き始めます。作品には由来なども添えられ、スケッチというよりは「石橋図鑑」

すえながさんが描く石橋は、石の数や色、形、その石組みの様子まで、ボールペンを使って忠実に再現されています。
その資料作りのため、秋から初夏にかけて石橋を訪ねて各地を回りますが、その多くは草に覆われているため作業は草刈りから始まります。次にロープを付けて川底まで降り立ち、あらゆる角度から写真に収めます。そして、週末に撮り溜めた写真を基に描き始めます。作品には由来なども添えられ、スケッチというよりは「石橋図鑑」

PUBLIC RELATIONS SASEBO

広報 させぼ

広報 No.659



広報させぼ 編集長「キューちゃん」

特集 悪質商法などにご注意! 消費生活ガイド

2 ~ 5 p

今月の主な内容

- 定例市議会、市民相談室など 6 ~ 11 p
- イベント、施設だより 12 ~ 15 p
- 市民の広場 16 ~ 17 p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 26 ~ 27 p
- 九じろうの取材日記 28 p



編集長から「一言」

1月号でこの欄に「ことしは良い年になるように」という内容の文章を書いたのは、ついこの前のような気がしますが、毎月の「締め切り」に追われ、気が付いたらあつというまに秋になっていました。「ことしは良い年だった」と言えるよう、あと3カ月のラストスパートに託します。(K)



先人が残した遺産を後世に

最近、市内で35基目の石橋が見つかりましたが、九州には全国のおよそ9割に当たる、2千基近い数の石橋があるといわれています。すえながさんの夢は、九州のすべての石橋を描くことだそうです。
「石橋探検をしながら、先人が残したふるさとの遺産を守り、伝えていきたい」と語ってくれました。

と名付けたいほどの精密な出来栄です。

現地の人たちに尋ねながら石橋を探し歩くことで、地元の人たちとの触れ合いも生まれます。

「忘れられていた物を見つけた時の感動も、石橋に魅せられた理由の一つです」とすえながさん。